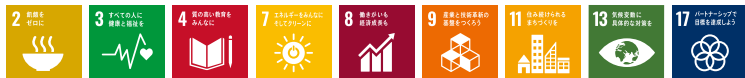


NTTドコモの ビジョン

NTT DOCOMO's Vision

トップメッセージ	04	ドコモグループビジョン	10
数字で見るNTTドコモ	05	ブランドスローガン、ブランドステートメント	11
特集	06	ドコモグループ行動原則	12
NTTドコモの企業理念	09	NTTドコモグループの中期戦略・経営目標	13

私たちは「新しいコミュニケーション文化の世界の創造」に向けて、
個人の能力を最大限に活かし、お客さまに心から満足していただける、
よりパーソナルなコミュニケーションの確立をめざします。



TOP MESSAGE

サステナブルで豊かな未来のために価値を生み出し続けるNTTドコモグループへ

つながろう。驚きを。幸せを。



株式会社NTTドコモ
代表取締役社長

前田 義 晃

価値創造で未来を豊かに

私たちは「テクノロジーと人間力で新しいつながりを生み、心躍る価値創造で、世界を豊かに、幸せに。」というグループビジョンを掲げ、社会の持続可能性向上に貢献するため、事業を通じて新しい価値の創造とさまざまな環境・社会課題の解決にチャレンジしています。

私は昨年の就任以来、お客さま起点の事業運営をより加速していくため、各地を訪ねました。その中で、お客さまの声をはじめとする現場の空気や温度感、日々の業務に誠実に取り組む社員・スタッフの姿に触れ、私たちの使命である「つなぐ」こと、特にその核である通信サービス品質の向上は最重要課題であ

ると実感しました。その基盤に加えて、先端技術の研究開発やAIをはじめとするテクノロジーへの対応を重ねていくことで、みなさまの生活に便利さや楽しさを提供し、さまざまな社会課題を解決し、未来を豊かにしていきたいと考えています。

2025年4月に始まった大阪・関西万博には、NTTグループとして6GやIOWN、XRなどの出展を行い、先進的なテクノロジーで生み出す価値を体感していただける機会になったと思います。また、NTTドコモでは、全国のこども食堂、地域イベントなどでバーチャル万博体験会を開催し、子どもたちが万博の魅力やテクノロジーの進化に触れ、世界や未来を考えるきっかけづくりも行っています。

地球環境をまもる

私たちNTTドコモグループは「地球環境保全への貢献」をマテリアリティの一つと定め、脱炭素、資源循環、生物多様性に関して全国で取り組みを続けています。2025年5月に発表した「生物多様性中期ロードマップ」は、国際目標である「2030年ネイチャーポジティブ」および「2050年自然と共生する世界」への貢献に向け策定したものです。「通信設備周辺の生物多様性配慮」「鉱物資源への対応・資源循環」「自社アセットの活用」の3つのテーマに分け、事業活動における生物多様性の重要課題および機会領域に対する具体的な目標と、各年の取り組みを設定しました。それに伴い見直しを行った「Green Action Plan」に従い、より良い地球環境を未来につないでいくため着実に取り組んでいきます。

社会を未来へつなぐ

通信を核とするテクノロジーで社会課題の解決に取り組むことは、私たちグループにとって最も親和性の高いサステナビリティ向上への貢献です。さまざまな産業のDXを支援し社会の変革を推進すること、災害にも強い高品質なネットワークを土台とした統合ソリューションや約1億のdポイント会員・お客さまに寄り添う各種サービスの豊かさを、より多くの方に実感していただけるよう取り組んでいます。昨年度重なる災害に見舞われた石川県とは、11月に「災害からの復興・地域活性のための包括連携協定」を締結し、被災地での社員ボランティア活動(延べ400名参加)や通信インフラ等の技術支援に加え、地域復興などにも地元のみなさまと協力し取り組んでいます。NTTドコモグループはテクノロジーと人間力で、安心・安全な社会をつくり、つないでいきたいと考えています。

さらなる進化をめざして

NTTグループの総合ICT事業を担う私たちNTTドコモグループの事業領域は多岐にわたっており、さまざまな個性をもつ企業で構成されています。その各社が、多くのパートナーのみなさまとともにイノベーションに取組み、未来を豊かによりよくしていくための挑戦を続けています。これからもグループの連携で総合力をさらに高め、生み出した「明日のあたりまえ」となる価値を、地域社会から世界までつなぐ使命を果たしてまいります。

数字で見るNTTドコモ (2024年度実績)

NTTドコモグループは、「社会・産業の構造変革」と「新たなライフスタイル創出」で成長と事業ポートフォリオの変革に向けて各事業で取組んでいます。

コンシューマ事業*

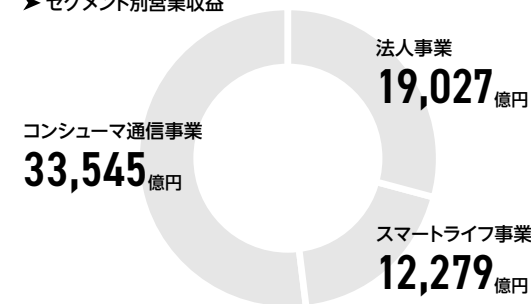
- 金融・決済やマーケティングソリューションなどの注力分野の有機的な事業成長に加え、M&Aによる非連続な成長の取組み
- お客さまに選ばれるバリューの創出により顧客基盤・収益を拡大
- 環境変化や災害に強いネットワークの構築に向けた取組みの加速

法人事業

- AI・IoT・デジタルBPOなどの重点領域における統合的なサービス強化による大企業のお客さま向けビジネスの拡大
- モバイル×ソリューションの深化による地域・企業の顧客基盤強化を通じた中堅・中小企業のお客さま向けビジネスの拡大

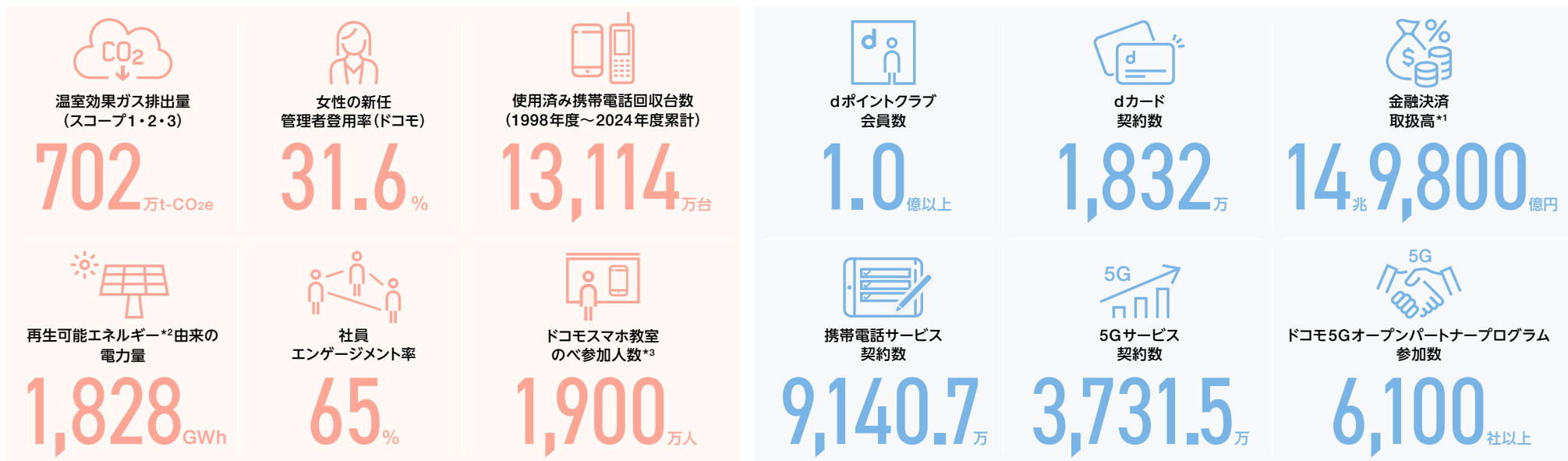
* コンシューマ事業：スマートライフ事業+コンシューマ通信事業

セグメント別営業収益



営業収益	営業利益	従業員数
62,131 億円	10,205 億円	51,698 名

☑ グループ各社



*1 金融決済取扱高：クレジットカード・バーコード決済など

*2 再生可能エネルギー指定の非化石証書なども含む実質的な再生可能エネルギー

*3 2025年5月現在



トップメッセージ

数字で見るNTTドコモ

特集

NTTドコモの企業理念

ドコモグループビジョン

ブランドスローガン、ブランドステートメント

ドコモグループ行動原則

NTTドコモグループの中期戦略・経営目標

特集

生物多様性ロードマップ

国際社会がめざす2050年「自然と共生する世界」および2030年「ネイチャーポジティブ」の実現に貢献するため、NTTドコモは「生物多様性中期ロードマップ」を策定しました。

NTTドコモは、2023年に実施した自社の自然資本への依存・影響の分析を通じ導き出された3つのテーマ（通信設備周辺の生物多様性配慮、鉱物資源への対応・資源循環、自社アセットの活用）それぞれに対して、対応方針、目標と具体的な取組みを年単位で設定しました。

「ドコモの力であるグループアセットとステークホルダーの力をドコモがつなぎ活かす」ことで、リスク低減の強化・社会への波及を通じ、「ヒトと自然が“あたりまえに”共生している世界」の実現をめざしていきます。

[P. 50 TNFD提言に基づく情報開示](#)

▶ 3つの取組みテーマ別アクション

1. 通信設備周辺の生物多様性配慮

2. 鉱物資源への対応・資源循環

3. 自社アセットの活用

対応方針	目標	ロードマップ		
		2025	2026	2027
1 地域やパートナーとの連携による周辺環境への生物多様性配慮を通じたネイチャーポジティブへの貢献 自社アセット（通信設備など）を活用したドコモならではの取組みの実施	生物多様性配慮に寄与する有効施策の全国展開	優先対応エリアのモニタリング調査および新規トライアル施策の実施に着手	モニタリング調査/トライアル結果を踏まえた有効施策の実装検討、基地局整備ルールなどへの組み入れ検討	本格実装、適用範囲の拡大、関連ルール見直し
	地域のステークホルダーとのコミュニケーションによる生物多様性に配慮した新規基地局設置（実施率100%）	建設マニュアルにおける「自治体への生物多様性関連注意事項確認ルール」の実装	ステークホルダーとのコミュニケーションの継続およびさらなるルールの見直し検討	
	基地局以外の既存通信設備周辺におけるパートナー連携でのステークホルダー参加型生物多様性保全施策の実施	対象地選定およびトライアル施策の実施	ステークホルダー参加型施策の本格実装	近隣企業と連携したエコロジカルネットワークの形成検討
2 上流：サプライヤ連携 サプライヤの紛争鉱物利用リスクの低減、紛争地域の人権課題への対応に向けた働きかけへの貢献 下流：資源循環 マテリアルリサイクルの推進による資源効率性の向上	紛争鉱物利用リスクの軽減・紛争地域の人権課題への対応を実行しているサプライヤからの優先調達 ^{*1}	<ul style="list-style-type: none"> 紛争鉱物利用リスクの軽減・紛争地域の人権課題への対応を実行しているサプライヤからの提案を評価する手法の着実な運用 重要サプライヤへの第三者評価^{*2}の原則実施検討 第三者評価結果が一定基準を下回るサプライヤとの直接対話の継続 	2025年度の取組み結果や環境変化などを踏まえた取組み/サプライヤ向け対応のアップデート検討	
	廃棄物リサイクル率99%の達成	サーキュラーエコノミーの推進		
3 ICT活用 自社のICT活用による生物多様性保全に資するソリューション・サービスの提供 地域拠点参画 地域での生物多様性保全活動によるネイチャーポジティブへの貢献	ICTを活用した生物多様性保全に資するソリューション・サービスの創出、提供拡大 ^{*1}	継続的なソリューションやサービスの創出/提供		
	自然共生サイト認定の拡大（2027年度までに全国5か所 ^{*3} ）を通じた地域における生物多様性の向上	自然共生サイト1件認定および地域拠点による保全活動の実施	自然共生サイト1件認定および地域拠点による保全活動の実施	自然共生サイト2件認定および地域拠点による保全活動の実施

*1 具体指標は継続検討

*2 EcoVadisなど

*3 2024年度に1か所認定済み

特集

社会への貢献

体験機会創出

未来へ歩き出す子どもたちが生き生きと成長する体験機会の拡充

取組み背景

近年、家庭の経済力や地域差による教育格差が拡大し、学習だけでなく好奇心や感性を育む体験機会にも偏りが生じています。未来を担うすべての子どもが成長できる環境を望む声は高まっており、将来を生き抜く力や社会参画への意欲を培う取組みが求められています。これまでNTTドコモは子どもたちが楽しくワクワクする体験や、学校での学習にとどまらない多様な学びの機会の提供に取組んできました。この取組みを拡充し、多様な子どもたちの可能性を引き出し、成長を後押しします。

バーチャル体験

子ども食堂でバーチャル万博体験

NTTドコモは、サステナビリティ推進室が中心となって推し進める子どもの教育・体験格差の是正施策の一環として、さまざまな環境下で育つ子どもたちに学びの機会を得てもらうために子ども食堂でバーチャル万博体験会を実施しています。

バーチャル万博とは、オンライン上に2025年大阪・関西万博を再現した仮想空間で、リアル会場を訪れることなく遠隔地からでもアバターとして万博を体験できます。全国初開催となった同年5月の福岡での体験会は、近隣の小中学生45名が参加し、タブレットやVR機器を使ってバーチャル万博を体験してもらいました。

テクノロジーの進化に触れながら自身の未来を考えるきっかけになるこのようなイベントを他地域でも開催し、全国の多くの子どもたちの成長をサポートしていきます。

実績 (2025年8月21日時点)

- 全国5か所の子ども食堂で開催
- 参加人数：延べ226名



オリエンテーションの様子



VR機器体験を楽しむ子どもたち

直接体験

通信インフラを支える事業体験

NTTドコモは、学校や保護者と一緒に「情報活用」「SDGs」「キャリア」の3つの観点から子どもたちの学びをサポートする教育支援プログラム「ドコモ サステナスクール」を2024年1月に開設し、その一環として中学生を企業に招き、最新技術などの見学を通じて、未来の社会や企業の社会的な役割を学んでいただくプログラム「キャリア教室 企業訪問」を実施しています。

2025年5月より、プログラムのラインナップを拡充し、NTTドコモの通信を守る現場を見学する「キャリア教室 企業訪問(ネットワークオペレーションセンター編)」を開始しました。

未来を担う子どもたちが、不確実性が増す世の中で自分らしいキャリアを歩んでいけるよう、当プログラムを継続していきます。

実績 (2025年6月30日時点)

- 開催回数：6回
- 参加人数：計42名



ドコモ サステナスクール



プロジェクションマッピングで通信ネットワークの監視状況を見学

特集

社会への貢献

地域振興
災害復興

地域課題への共創と安心を届ける仕組みづくり

取組み背景

人口減少や地域資源の活用、災害時の孤立、医療確保など地域が抱える課題は一層深刻化しています。行政・企業・住民が連携し、持続可能で魅力あるまちづくりを進めることが社会全体の強い要望です。NTTドコモは、主業である通信事業にとどまらず、地域社会が抱える多様な課題に向き合い、解決する活動を行っています。地域コミュニティの再生や暮らしの質の向上など、地域のみならずともに取組み、誰もが安心し、希望を持って暮らせる社会の実現をめざしていきます。

地域活性化支援

おだわら応援プロジェクト

NTTドコモは2024年12月に神奈川県小田原市や地元企業などと地域の振興・課題解決に関する連携協定を締結し、「おだわら応援プロジェクト」を始動しました。その第一弾として、市内の子どもの育成支援をテーマに、「d払い*1」を活用したキャッシュレス募金、「ジモティーすくすくボタン*2」を活用した取組みをスタートしています。「d払い」のキャッシュレス募金による寄付金は児童養護施設で生活する子どもたちへの体験機会の提供などに活用します。「ジモティーすくすくボタン」の取組みでは、市内各所やドコモショップで不要になった子ども服などを回収し、小田原市や社会福祉協議会を通じて支援が必要な子どもたちに届けています。

*1ドコモのスマートフォン決済サービス

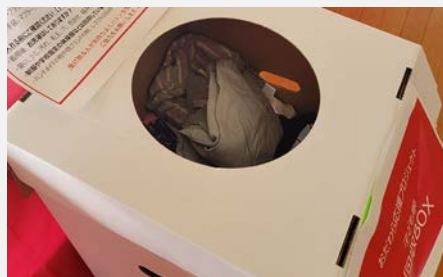
*2 地域情報サイト「ジモティー」と連携して取組む子ども服や絵本の地域循環サービス

実績 (2025年7月31日時点)

- 大阪・関西万博への招待：高校生5名
- 子ども服などの回収数：約350点



「d払い」を活用した募金の様子



ジモティーすくすくボタン回収BOX

災害復興支援

能登地域災害支援

NTTドコモは被災した奥能登地域の早期復旧のため、さまざまな支援活動を実施してきました。震災からほどなくして、避難生活を余儀なくされている方々がスマートフォンからかかりつけ医の診療を受けられる仕組みづくりをした結果、医療を必要とする方の安心につながりました。

豪雨後の2024年11月、12月には、輪島市にNTTドコモグループの有志によるボランティアスタッフを派遣しました。現地では水害により損傷した家財の運搬や庭・外構へ流れ込んだ泥や土砂の掻き出しや運搬などを手伝えました。また、2025年1月以降、「dポイント・d払い」を交えて復興支援募金を開始したほか、石川県の特産品を扱った販売イベントやランチ会を開催し、現地をアピールしながら生産者を支援するなど、被災地復興を後押しする活動を続けています。

実績 (2025年7月31日時点)

- ボランティア参加者：NTTドコモグループ400名以上
- 累計募金額：約270万円



オンライン再診の様子



力を合わせた土砂の掻き出し作業の様子

NTTドコモの企業理念

私たちは「新しいコミュニケーション文化の世界の創造」に向けて、個人の能力を最大限に生かし、お客さまに心から満足していただける、よりパーソナルなコミュニケーションの確立をめざします。

● 新しいコミュニケーション文化の世界

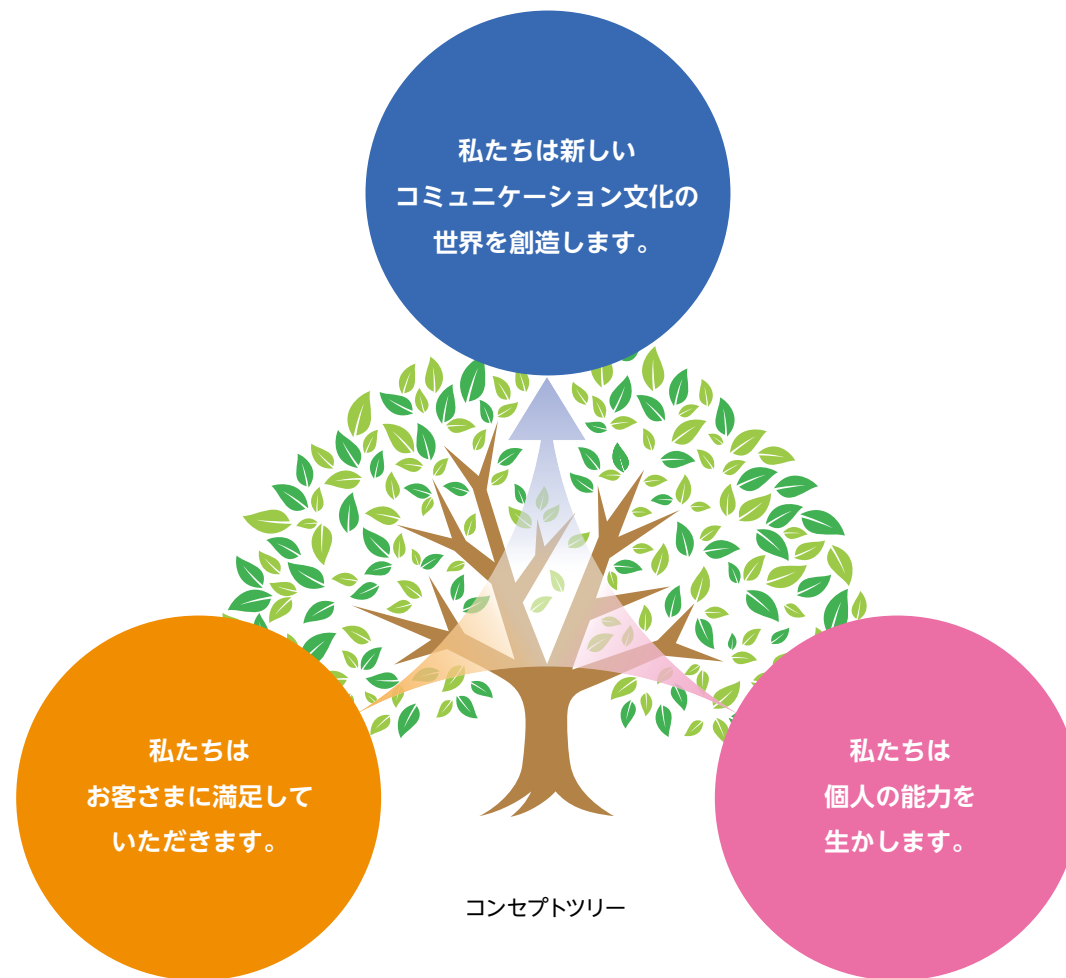
より新しい、より豊かなコミュニケーション文化の世界を実現させるため、私たちはサービス品質の改善をはかり、人にやさしい高度なヒューマンインターフェースをめざした技術開発や、より多彩なサービスの企画開発を積極的に進めるとともに、より広いエリアでサービスを提供していきます。

● お客さまの満足

私たちは、まずお客さまへの対応を充実させ、サービス品質の改善や独自ネットワークの構築、機能の充実、サービスエリアの拡充をはかります。さらには、より充実したサービスを低廉な料金で提供することにより、さまざまなお客さまの満足にお応えしていきます。

● 個人の能力を生かす

人材育成制度を充実し、人事育成一体化を推進することにより、個々の能力活用をはかるとともに、環境・労働条件の向上、福利厚生充実など、働きがいのある職場づくりを行っていきます。



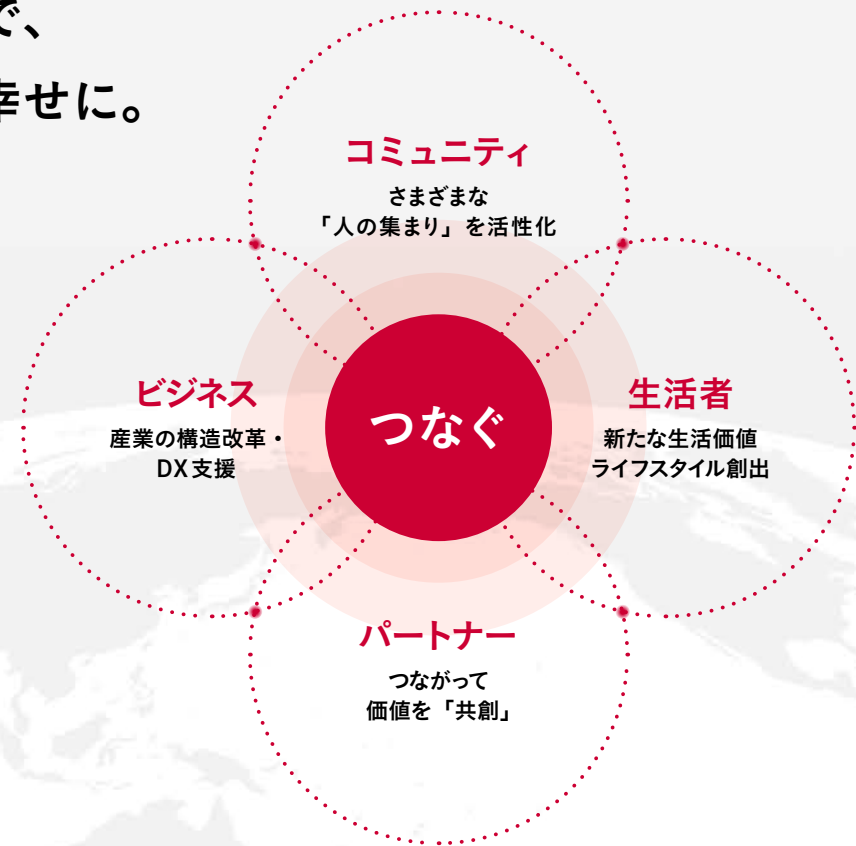


ドコモグループビジョン

ドコモグループがどのように新しい価値を生み出していくのかを表現したのが「グループビジョン」です。

ドコモグループには多様な事業領域があります。私たちは「つなぐ」を価値創造の源泉として、それぞれの事業の強みをつなぎ、掛け合わせることで、パートナーのみなさまとともに新しい価値を生み出し、さまざまなお客さまやコミュニティに届けていきます。

テクノロジーと人間力で
新しいつながりを生み、
心踊る価値創造で、
世界を豊かに、幸せに。





ブランドスローガン、 ブランドステートメント

時代とともに、
さまざまなものをつないできた私たち。
しかし今。
世界中のさまざまな困難が、
ただ「つなぐ」だけでは解決できない課題があることを、
浮き彫りにしている。
だからこそ今、私たちは改めて
「つなぐ」の可能性に向き合いたいと思う。

私たちは、驚きを、つなぐ。
変わることをおそれず、
絶えずイノベーションを起こすことで、
心と社会を動かしつづける。
私たちは、幸せを、つなぐ。
人が誰かを思う気持ちによりそい、
企業や地域が前進する力を後押しすることで、
よろこびと安心を支えつづける。

つなぐ。
そこには無限の可能性がある。
まだない可能性を引き出し、
心躍る価値を生み出すために。
すぐに、すみずみまで、最後まで、つなぐ。
時には誰かと手をつなぎながら、
ともに、どこまでも、つなぐ。
ただつなぐだけでは、足りない。
「つなぐ」すべてをやりきって初めて、
本当の驚きも、幸せも、つながっていく。

すべての人が豊かさを感じられる世界をめざして。
つなごう。

つなごう。 驚きを。 幸せを。



ドコモグループ行動原則

ドコモグループがどのように新しい価値を生み出していくのか。そのためにグループ社員一人ひとりが今でも心に持っている熱い想いを、考えるだけでなく、行動する。やってもらうだけではなく、やりきる。「つなごう。驚きを。幸せを。」の実現に向けた行動原則です。

グループ社員として持つべき責任感

つなぎきる

常に社会の利益を考え、誠実に真摯に「つなぐ」をやりきる

私たちドコモグループは社会をよくするために生まれた。だからこそ私たちは常に社会全体がどうすれば良くなるかを、誠実に、まっすぐに考えています。真摯に「つなぐ」をやりきる責任感をもって行動しよう。そうした価値観をもとにした社員一人ひとりの行動が、集まり、積み重なり、かたまりとなって、社会をよくする原動力につながっていきます。

「お客さま起点の事業運営」を行うために

当事者意識

目の前の仕事だけでなく“ドコモグループの仕事”すべての当事者になる

ドコモグループのすべての事業は、社会を豊かで幸せなものにするために存在している。そしてそれを実現するのは、社員一人ひとりの当事者意識です。自分がドコモグループのお客さまと社会をつなぐんだ。そんなあなたの当事者意識と、それに基づいた行動で、マーケットを創造する存在、牽引する存在としての責任を全うしていこう。そのプライドがドコモグループの未来につながっていきます。

リスペクト

パートナーや仲間と共に学び尊重しあい、お客さまの期待を超えていく

やりたいことがある。実現するためのアセットもそろっている。でもそれをうまく活用していくためには、たくさんの人と仕事をしていく必要があります。最初から、相手が自分と同じことを考えていることなんてほとんどない。そんな時こそ、互いに学びあい尊重しあい、リスペクトすることで社会を創り出していこう。互いに刺激し、刺激されながら新しい価値を生み出すことが、お客さまの期待を超えることにつながっていきます。

チャレンジ

お客さまの喜ぶ顔を想像しながら新しい価値創造への挑戦を止めない

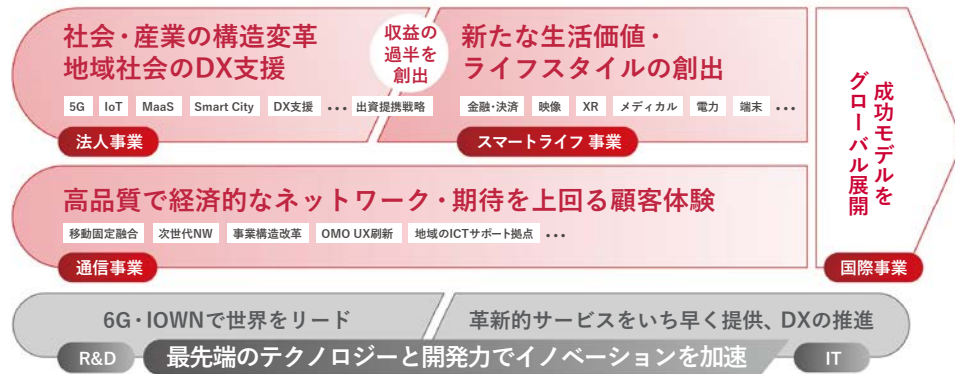
チャレンジは新しいことを創り出すことだけではなく、「変化を生み出す」ということ。お客さまの喜ぶ顔を想像しながら、チャレンジしているんなことを変えていく、そして進化させていく。小さなことからでもやりきることを大事にしていこう。さまざまな局面でチャレンジし、それを自ら機会として創り出していくことが、新しい価値創造につながっていきます。

NTTドコモグループの中期戦略・経営目標

NTTドコモは、2021年10月に「新ドコモグループ中期戦略」として、新しいNTTドコモグループの挑戦、中期戦略・経営目標について発表しました。

※2025年7月時点の内容です。

中期戦略



法人事業

NTTドコモビジネスを中核に新NTTドコモグループとして法人事業を統合し、営業体制の強化と移動固定融合サービス・ソリューションの充実を図ります。そして、2025年度には法人事業を2兆円以上に拡大し、社会・産業DXのリーディングカンパニーをめざします。

スマートライフ事業

会員基盤とデータ活用、サービスと多様な端末とのシームレスな連携により、パートナーとともに新たな生活価値・ライフスタイルを創出します。そのために、「金融」「マーケティングソリューション」「エンタメ」などの主要領域のさらなる強化を図り、法人事業とともにNTTドコモグループの収益を牽引していきます。

通信事業

すべてのサービスとコンテンツの土台となる通信サービス品質の改善と信頼回復を最重要課題とし、お客さま体感にこだわってプロアクティブな改善を進めることで、さまざまなサービス・コンテンツを快適にご利用いただくための環境を整え、最良のブランド体験をお届けします。

そして、多様なニーズに応える料金・サービスと販売チャネルの変革をパートナーとともに実現し、期待を上回る顧客体験を創出します。これらの取組みにより、「顧客基盤の拡大」と「販売・ネットワークコストの最適化」の構造改革を実現し、通信事業の中期的な利益維持・成長軌道への転換を図ります。

成功モデルをグローバル展開

NTTドコモとNTTドコモビジネスのケイパビリティの融合やNTTデータ・NTT Ltd.との連携により、これまで培ってきたサービスやソリューション、新しいテクノロジーを活用した成功モデルが誕生しました。これら成功モデルはNTTドコモ・グローバルが中心となり、グローバル展開していきます。

サービス創出・開発力強化

革新的サービスをいち早くお客さまに提供し、グループ全体のDXを加速するためソフトウェア開発力を徹底的に強化します。

最先端のテクノロジーで

イノベーションを加速

オープンイノベーションをリードし、パートナーとともに世界を変えていきます。6G・IOWNについては、NTT研究所と連携し、早期の実用化をめざします。また、衛星・HAPSを活用した非地上系ネットワークの実現に取組みます。

サステナブルな社会の創造に貢献

NTTドコモグループは、2021年に「2030年カーボンニュートラル宣言」を、2023年には「2040年ネットゼロ」を発表しました。事業運営とともに脱炭素社会の実現、多様性推進やワークスタイル変革などのESG課題への取組みを一体的に推進し、サステナブルな社会の創造に貢献します。

[P. 14 NTTドコモのサステナビリティ](#)

[新ドコモグループ中期戦略](#)

▶ 2024年度実績

項目	実績
法人事業*	19,027億円
スマートライフ事業*	12,279億円
コンシューマ通信事業*	33,545億円
dポイントクラブ会員数	1億
携帯電話契約数	9,140.7万
金融決済取扱高	149,800億円
決済・ポイント利用可能箇所	665万か所

*営業収益